
ゼカヒカ

深海魚テイスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼカヒカ

【Nコード】

N8416A

【作者名】

深海魚テイスト

【あらすじ】

釘宮真琴。16歳。ゼカヒカにて奮闘中。

プロローグ（前書き）

初めまして。深海魚テイストです。
よろしく願います。

「データベース」が何なのか分からない場合は、調べてください。

プロローグ

某県、某市。某町内。

ひっそりと佇む今川寮の301号室。暗い室内。

一人の少年がパソコンに向かっていた。

何事かをぶつぶつと呟いてはキーボードを乱打している彼は釘宮真琴。16歳。

この寮に隣接している「聖ドレッシング学園」のディベート部員でもある。

今、彼がワープロソフトにて執筆しているのは「立論」と呼ばれる物で、ディベートをする際に必要不可欠なアイテム。自分の主張を述べる文章であった。

毎年、夏休みになると「ディベート甲子園」なる大会が行われ、大いに盛り上がる。真琴の学校は今年初めて地方予選を突破し、全国大会へ出場することが決まっていた。

真琴はキーボードを叩く手を休め、時計を見た。

「午前1時」

驚いた。夢中になりすぎて、時間が経つのを忘れていたらしい。夜の8時頃から始めた作業は、実に5時間を経過していることになる。真琴は椅子の中で伸びをして、凝りかたまった身体をほぐした。

「続きは・・・明日かな」

そう言っただけ彼はパソコンを閉じようとして見た。

ディスプレイの中で、異変が起きていた。

先程まで表示されていた文章は跡形もなく消え去り、真っ暗になった画面。

ただそこには、それだけが、書いてあった。

「是か、否か」

真琴は怪訝な顔をして、その謎の表示を覗き込んだ。

「・・・ウイルスか？」

どうやら、「是か、否か」の部分はクリック出来るようになってい
るらしかった。彼は一瞬躊躇したがしかし、その文字列にカーソル
を当て、押した。

刹那。轟音と共に彩光が室内を満たし。

彼はこの世から消え去った。

プロローグ（後書き）

次回からが本編です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8416a/>

ゼカヒカ

2010年12月10日18時39分発行